

日本神経精神薬理学会第40理事会(2007年度)議事録

日時： 2007年7月10日(火) 18:00~21:00

場所： 札幌コンベンションセンター 1階「108会議室」(札幌市)

出席者： 樋口輝彦 理事長、吉岡充弘 会長、大熊誠太郎、亀井千晃、小山司、鈴木勉、
武田弘志、鍋島俊隆、山脇成人、油井邦雄、米田幸雄(以上、理事)、小島卓也、
五味田裕(以上、監事)

樋口輝彦理事長より議事の開始が宣言され、また本年会開催に対する尽力に対して吉岡充弘会長に謝辞が述べられた。

議事：

・報告事項

1. 第37回年会準備状況報告

吉岡会長より本年会開催の準備状況について報告された。

第37回年会(第29日本生物学的精神医学会との合同開催)は、シンポジウム8題、オーラル80題、ポスター200題の応募があり、参加者も900名前後を見込み盛会に開催される予定である。合同開催される第29回日本生物学的精神医学会年会会長である小山司理事よりも翌日より開催される年会について挨拶があった。

2. 各種委員会報告

a. 総務委員会(米田委員長)

米田委員長より、以下の通り会員報告が説明された。

会員数：1,025名(2007年6月30日現在)

| | | |
|-----|------|------|
| 内訳 | 名誉会員 | 8名 |
| | 評議員 | 187名 |
| | 正会員 | 805名 |
| | 賛助会員 | 25社 |
| 新入会 | | 37名 |
| 退会 | 本人申出 | 32名 |
| | 逝去 | 1名 |

物故者 秋元波留夫 2007/4/25 名誉会員

また、以下の議題につき委員会で検討すべく、理事会にて審議いただきたいとの報告があり後ほど審議されることとなった。

旅費援助規定の件

前回理事会・評議員会においてCINPでのシンポジストへの旅費援助が振興基金より支出することとなったことをうけ、内規を決め決定する

名誉会員推戴の件

学会員の確保について

会員名簿の作成について

b. 編集委員会(鈴木委員長)

鈴木委員長より、機関誌投稿・刊行状況、企画などについて報告された。

雑誌刊行状況について報告があった。

26 巻：総説 15 編、ミニレビュー 11 編、原著 5 編、短報 1 編 を掲載した

27 巻：総説 9 編、ミニレビュー 4 編、原著 7 編を掲載し、以後も順調に掲載予定。
ミニレビューが学会賞の対象であることを更に広く広告する必要がある。

従来、第 6 号として年会抄録を掲載する号を発行していたが、第 6 号が廃止され、
第 5・6 号として発行されることになり、また、年会の抄録については改めて学会誌
への掲載を行わないことが理事会でも決定されているので、次回年会（2008 年）よ
りは正式に抄録掲載を廃止することが提議され、承認された。

c . 財務委員会（大熊委員長）

大熊委員長より、2006 年度決算、貸借対照表について説明され、また小島監事より監査
報告が発表され、承認された。また、2006 年度収入として、第 36 回年回の尾崎会長より
会長補助金返還として 50 万円の寄付があったことが報告され、謝辞が表された。

2007 年度収支の中間報告が提示され、概ね適正に執行されていることが確認された。

d . 国際学術委員会（山脇委員長）

山脇委員長より以下の通り報告された。

CINP 活動報告

- ・ 新 President として Torgny Svensson（スウェーデン）が就任した。
- ・ Executive Secretary として Mike Michelle が就任した。
- ・ 事務局がナッシュビル（アメリカ）からグラスゴー（イギリス）に移転した。
- ・ 第 24 回大会が 2008 年 7 月にミュンヘン（ドイツ）で Moller 組織委員長により開
催される。
- ・ 第 25 回大会が 2010 年に香港にて開催されることになり助力することとなった。
- ・ CINP Asia Regional Meeting として 2006 年 3 月パタヤ（タイ）、2007 年 3 月バ
ンコク（タイ）が開催され、本学会としてシンポジウム参加し演者には旅費援助
が行われた。

アジア神経精神薬理学会（AsCNP）の設立構想について

- ・ 2007 年 3 月 15 日にソウルで開催された韓国神経精神薬理学会（KCNP）において
「アジアにおける臨床治験、基礎研究の共同研究の推進」と題するシンポジウム
が開催され、Tian-Mei 教授（北京大学）と本学会より樋口理事長、山脇理事が招
聘された。この際に KCNP より ACNP、ECNP に対応する組織として AsCNP の設立が
提案された。
- ・ AsCNP の設立の前提として日本臨床精神神経薬理学会（JSCNP）との連携を進める
べく、2008 年 10 月に開催される JSCNP との合同年会においてアジアセッション
の企画を検討することとした。

e . 学術賞選考委員会（武田(弘)委員）

本年度の学術賞受賞者に次の 1 名が決定したことが報告された。

- ・ 今井 哲司（星薬科大学薬品毒性学教室）

候補論文として非臨床系 5 編、臨床系 1 編があり、うち臨床系 1 編については学術賞規
定を満たしていないため対象とせず、非臨床系 5 編より議論の末、決定した。

また、今後について、受賞に洩れた候補にも、その理由を知らせることとなった。

f . 長期計画委員会（尾崎理事長）

特になし。

g. 広報委員会（油井委員長）

油井委員長より本学会ホームページの更新状況について以下のとおり報告された。

追加項目

「理事会活動」、「委員会活動」、「学術賞規定」、「学術賞過去 2 年間の抄録掲載」、「関連学会の動向」の各ページを増設した。

作業中

「海外派遣事業」、「トピックス」、「研究助成金」などのページを準備中であることが報告された。作業の効率の観点から、「研究助成金」のページはリンクを設置することとし、また「トピックス」のページについては、学会誌におけるミニレビューを範として作成されることとなった。

h. 倫理委員会（亀井委員長）

亀井委員長より、「研究倫理委員会規定」が提示された。前回評議員会において提起された意見を反映した改定案であり、協議の結果、さらにいくつかの修正が指摘され、修正を加えた規定（案）を評議員会に付議することになった。

また、吉岡会長より演題採択の際に倫理問題に関連した事案が生じたとして報告があった。所属施設の倫理委員会を経ていない演題が 2 件あり、今後について検討すべきとの意見もあったが、倫理に関する判断については「研究倫理委員会規定」に示される各種省庁による倫理規定に従うこととし、学会での審査はそぐわないことから、本学会倫理委員会での審査はしないことが確認された。

i. 研究推進委員会（西川委員長）

特になし。

・ 審議事項

1. 2008 年度予算（大熊財務委員長）

2008 年度予算が説明され、承認された。

2. 次々期会長の選出

樋口理事長より米田幸雄理事が推挙され、全会一致で承認された。

但し、日本臨床精神神経薬理学会との合同年会開催を踏まえ、開催地については現時点では決定しないこととなった。

3. 新評議員の選出

米田総務委員長より、本年度評議員候補者として以下の 3 名が推薦されていることが説明され、協議の結果、全員を承認することとなり、評議員会・総会へ付議することとした。

また、既存の評議員について次回理事選挙に間に合うように、継続の意思を確認することとなった。

4. 名誉会員の推戴について

米田総務委員長より、名誉会員の推戴候補者のリストが提示された。

功労のあった方々であるので、既に退会されている方も含め推戴することし、全員を推戴が承認された。候補者本人の意思を確認し、承諾された方々には名誉会員記を送付する。

5. 新入会希望者について

米田総務委員長より、前回年会終了時よりの入会希望者の一覧が示され、問題なく承認されていることが報告された。

また、会員増加のための施策として各種認定制度との関係について広告していくこととなった。

6．名簿作成について

米田総務委員長より、会員名簿作成について昨今の個人情報保護法や財政的な観点から Web 上よりの登録情報変更なども検討すべきとの提案があったが、従来通りの方式にて名簿調査し作成することが確認された。

7．CINP 関連シンポジウムのシンポジストへの援助の件

米田総務委員長より CINP 関連学会への合同シンポジウムの演者への旅費援助規定について、問題点などが提示され、協議された。意見があったが、総務委員会において内規を定めた上で、該当すると認定された演者に対し旅費援助を行うこと、金額についてはエコノミー料金（ディスカウント価格）とすること、支払いは個人が立替え後日精算とすること、などが合意された。

なお、この旅費援助は振興基金よりの支出とし、不足した場合でも一般会計よりの充当はしない。

また、アジアからの若手研究者招請のためのアジア基金のあり方について提議されたが、今後、長期計画委員会にて検討されることとなった。

8．日本神経化学会からの合同開催申し入れの件

樋口理事長より、日本神経化学会の高坂新一理事長より、合同あるいはいくつかの関連領域学会によるフェデレーション形式での年会開催について申し入れがあったことが説明された。

その趣旨には賛同できるとの意見が多かったが、日本臨床精神神経薬理学会との合併を目指して協力していくことが緊急の課題であるので、取り敢えず 2009 年については参加できないこと、今後についてはその時期をみて参加することを前向きに検討すべきことなどが確認された。

以上